

健康と光線

因習の打破

サナモアの生みの親、宇都宮義真は、小冊子「光線療法の話」に、因習の打破と題して次のように書いています。

「多年の習慣で、病気になる、かならず薬をのむか、手術をするかせねばならぬとおもっている人もあるが、薬と手術だけが病気の治療法ではない。薬は、のむよりも、のまないほうがよいこともあり、手術もするよりも、しないほうがよいことがある」。

勿論、病気を治療する上で、薬と手術の役割を否定することはできません。しかし、これだけでは、すべてが解決しないことも周知の事実です。サナモア中央診療所に相談に来る人を見ても、一見華々しい医学の進歩からとり残された例が少なくありません。安心して使える有効な薬がなく、手術の対象にもならないという理由で、絶望的になっている人もいます。これらは全て、現代医学が病気を結果として捉えた上で、薬か手術で治療するため、病気を治すには、薬を服用するか手術を受けなければならぬという思い込んでしまっただけです。

これはならないと思ひ込んでしまつたためです。このような固定した考え方は捨てなければなりません。宇都宮義真は、光線療法の立場から病気の予防ならびに治療の問題に取組み、光線が健康法として、あるいは治療法として有効なことを経験し、根強い偏見に抗して啓蒙普及に努めました。疾病治療の原点は、病気と健康とを別個に考えるのではなく、健康を回復する方策を講ずることが病気の治療になり、光線療法はこの点から万病に応用できることを強調したのである。

健康こそ病を防ぐ

慢性疾患の発病の発因は、未だ殆んど説明されていません。従つて、現段階で私たちに即刻できる対応策は、「健康こそ病を防ぐ」という全く当り前のことを再認識し、そのための努力をすることしかありません。

即ち、健康を損なつたため病気になることを考えれば、ある病気にはある治療法と限定するのではなく、病気の如何を問わず、健康に益し、自からの治癒能を高めることは併用する姿勢が大

発行所

〒153
東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア中央診療所内

サナモア光線協会

年4回発行

会費 年500円

電話 東京(03)

793-5281

712-5322

切です。

ただ、健康と言っても、実体は曖昧です。これは医学的に健康の程度を調べる術が全くないからです。これが健康を研究しようとする際に決定的な隘路になっていきます。

健康を

(1) 食事がおいしい。

(2) 少々のことでも風邪を引かない。

(3) 昼は元気に働け、少々のことでは疲れない。

(4) 夜はよく眠れて、朝は元気に起きられる。

と定義した医学者がいますが、一般的には回顧的に評価するしかありません。

でも、学問はどうあれ、私たちは健康になるための努力を怠ってはなりません。私は、その際に重要な要点は、文明が栄える以前の祖先の暮らしに見ることのできる気がします。現世では、医療関係者より、農漁業に従事している人の方が、余程理に合った生活をしているのではないでしようか。

いざ健康の研究が進めば、毒をもって毒を制する式の現代医学と異なり、積極的に健康回

復を図る治療体系が生まれる可能性があります。さすれば、一億総半病人と言われる事態も解消するかも知れません。但し、健康は与えられるものでなく、獲得すべきものですから、自ら成すべきことが重視されるでしょう。

健康のための医学を

— 高齢者ほど光線浴が必要 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

訴えるお年寄りが増えています。これらの患者の多くは、何か治療を受けていますが、必ずしも期待した効果はありません。そのため、兎角家に閉じ籠り、安静第一になり勝ちです。

ここで発想を変えて、陽光下は屋外に出て可能な範囲で身体を動かすようにしたらどうなるでしようか。結果は言うまでもなく、前者に倍する治療効果を認める筈です。その上、成人病の予防面でも、皆様が考える以上に役に立ちます。

おわりに

病気になるという身体づくりを目指す健康のための医学は、暗中模索、試行錯誤の域を脱し切れずにいます。しかし、最も重要かつ緊急を要する研究テーマです。

日本人の三大死因、悪性腫瘍、脳血管障害、心臓病についても、治療以上に予防医学が求められます。近年、ようやく緒に就いた感がある健康のための医学の発展は、焦眉の急と言わなければなりません。光線療法はその一端を担うものです。

高齢者ほど屋外へ

光線医学の面からは、加齢と共に光線感受性が減退し、ビタミンD生成能も低下しますので、健康状態を保持し、成人病を防ぐには、高齢者ほど十分な光線を浴びる必要があります。(応用光線療法学参照)

昨今、腰が痛い、膝が痛い

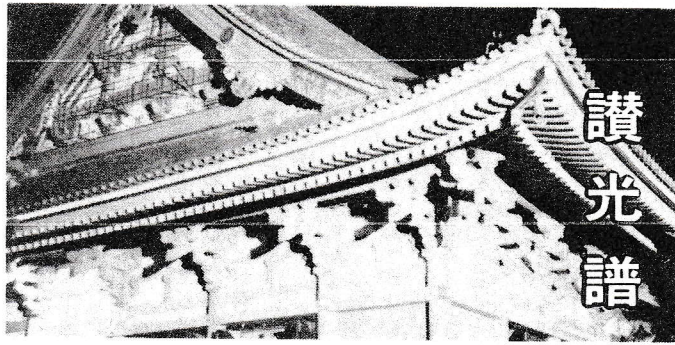
謹賀新年

昭和五九年 元旦

東京光線療法研究所

「浅草観音」

宇都宮義真撮影



讃光譜



一、病気の自然治癒

現代医学の粋をつくしても容易に治癒傾向のない病気が広々にして自然治癒することがある。宗教家はこの現象をとらえて神の御利益と説くのである。病者は何であろうと治りさえすればよい。人間が一生病気を自覚せずに過ごす人が案外多いのは、偉大な自然治癒力があるからである。自然治癒力を最もよく利用するのが真の名医である。

二、結核の癥痕

結核は医療の非常に困難な病気であるが、二十才以上の都会人で結核にかかったことのない人は稀である。しかし又非常によく自然治癒もする病気であるから、大抵の人は自分は一度も結核にかかったことはないと思っている。少し永引いた風邪と思ったのが意外にも結核であることもある。健康者のレントゲン写真に結核治癒の癥痕があっても不思議ではない。結核の感染は必ずしも発病を意味しない。

三、癌腫の消滅

一般に不治の病と思われる癌腫も自然治癒することがある。人体の防禦作用によって癌細胞の発育に不適当な体質となれば癌は自然に消滅せざるを得ない。考え方によっては人間が悉く癌にならないのが不思議である。

フランスのある学者はよく検査をすると四十才以上で癌のない人は一人もないと言っている。癌と一生同居しながら自分でも気がつかず天寿を全うする人もあり得るのである。

四、淋疾の治癒

かねて淋疾の病歴のあった人で検査をして見ると僅かに淋巴球の散、点在が認められ、以前

天癒と人癒

宇都宮 義真

に相当の炎性機転のあったことは明かであるが、結締組織の増殖を残すのみで、現在淋疾の存在を証明することのできないことがある。これは明かに自然治癒と認めるの外はない。しかし自然治癒があり得ることは医療を怠つてよい理由とはならない。

五、ひぜん三年

「ひぜん三年、かさ五年」と

は恐らく多年の経験から生れた言葉であろう。凡ゆる治療をしても頑として治らぬ皮膚病や胎毒が二、三年もして忘れた頃に自然治癒することがある。一時某教團の間に流行して問題になった疥癬も何時とはなしに下火になったようである。

六、かさげ

「已惚れ気とかかさ気のない人はない」と言われるほど人類と梅毒との関係は密接である。しかし脳梅や鼻の落ちる人は案外少い。文献によると日光浴をつづけると梅毒のワッセルマン反応や癌のフロエンド、カーメネル氏反応も陰性になることが見えている。要は抵抗力の如何が問題になるのではないかと思う。

七、感冒とアスピリン

アスピリンを風薬と知っている人もあるが、アスピリンは解熱剤であつて風薬ではない。風を引くのは抵抗力が弱いからであるが、アスピリンには抵抗力を強くする力はない。北里研究所の高野博士はある本に「自分は風を引いても薬はのまぬ。静かに日光浴をして治す。風引きを治せるお医者様があつたらお目にかかりたい。アスピリンを飲ませる医者は本当の風医者ではない」と書いてある。アスピリンで七日で治る感冒は何も飲

まないで静かに寝ていると胃腸障害を起さず抵抗力が早く恢復するから二日位は早く治るものである。

八、所謂「特効薬」

「不老不死の薬」を探した秦の始皇帝の故事になつた訳でもあるまいが、現代人はむやみに特効薬を求めてやまない。而も過去の特効薬の歴史は始めは脱兎の如く終りは処女の如く、徒らに眩暈の悲哀を感じさせるものが多かった。吾人は決して今日の進歩した医療手段を全面的に否定するものではないが生体の自然治癒現象を無視又は抑圧するような治療法に対しては反省を促したいのである。

九、天癒の強化

サナモア光線療法は三、〇〇乃至三一〇ミリクロンの波長をもつ電磁波を応用して人体の天癒能力を人工的に増進するのが特長である。故に内科とか外科とか皮膚科とか婦人科等の区別はない。また発熱、疼痛、瘡痒、咳嗽、下痢等の緩解するのは積極的に病勢を改善するからであつて、単に症状だけの鎮静を目的として消極的に病気の天癒を待つものとは根本的の意義を異にするものである。

「健康と光線」昭和25年2月1日発行より転載した。

(高) 令者によく見られる難治な骨、関節疾患に、加令によって増悪する骨軟化症が関っていることに疑いはない。

この骨軟化症の原因は単一でないが、最も主要なことは、加令に伴うビタミンD生成能および吸収能の低下であり、その結果として、ビタミンDの欠乏状態が続くことである。

ここで高令者のビタミンD代謝について概説しよう。

(既) に本稿で述べた如く(応用光線療法学⁽¹⁰⁾)生体のビタミンD生成量は、一元的には紫外線の関与で7-デヒドロコレステロールの量に左右されるが、活性には肝臓、次いで腎臓で代謝される必要がある。それ故、加令によって生理的にビタミンDの作用が減弱することを明らかにするために、加令による生理的な腎機能低下も考慮しなければならぬ。

イスラエルのワイスマンらは、近年明らかにされたこれらの点を踏まえて、加令のビタミンD代謝に及ぼす影響を明らかにした。

(高) 令者によく見られる難治な骨、関節疾患に、加令によって増悪する骨軟化症が関っていることに疑いはない。

この骨軟化症の原因は単一でないが、最も主要なことは、加令に伴うビタミンD生成能および吸収能の低下であり、その結果として、ビタミンDの欠乏状態が続くことである。

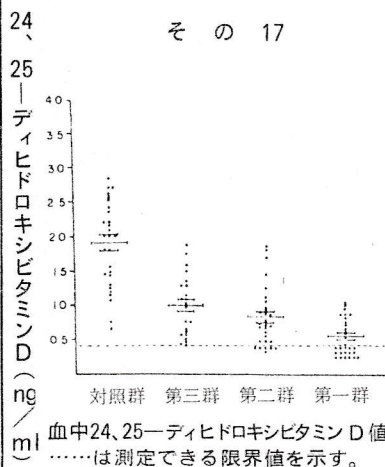
ここで高令者のビタミンD代謝について概説しよう。

(既) に本稿で述べた如く(応用光線療法学⁽¹⁰⁾)生体のビタミンD生成量は、一元的には紫外線の関与で7-デヒドロコレステロールの量に左右されるが、活性には肝臓、次いで腎臓で代謝される必要がある。それ故、加令によって生理的にビタミンDの作用が減弱することを明らかにするために、加令による生理的な腎機能低下も考慮しなければならぬ。

イスラエルのワイスマンらは、近年明らかにされたこれらの点を踏まえて、加令のビタミンD代謝に及ぼす影響を明らかにした。

応用光線療法学 (20)

□ ビタミンDの作用 □



医学博士
宇都宮光明

(次) に腎機能のビタミンD活性化に及ぼす影響を調べるため、24、25-デヒドロキシビタミンDと25-デヒドロキシビタミンDの比を求めると、高令者は若年者より有意に低値をとるが、高令者では各群の間に有意差を認めない。

これは加令による生理的な腎機能の低下も、骨軟化症の悪化に關与していることを示すと共に、血中ビタミンD値は皮膚で造られるプレビタミンD₃量による。

令者群で明らかに低値をとる。この値を検討すると、八二例中一五例(一八%)はビタミンD欠乏があり、八二例中一八例(二二%)はビタミンD値は境界域にある。即ち、八二例中四三例(五二%)はビタミンD欠乏ないし欠乏に近い状態にある。

(2) 高令者のビタミンD吸収能は半数で低下していたが、検査前のビタミンD値と吸収能の間に關連性はなかった。

(3) 即ち、高令者がビタミン

り、七〇才の人は二〇才台の人の半分しかないことを指摘した。この理由についてホリックは、高令者で皮膚の光線感受性が低下するのは、他のすべての代謝機能も低下することから当然であるとして、加令により皮膚が薄くなる結果、ビタミンD₃を合成する細胞が減少するのも原因にあげ得ると述べている。

(ホ) リックは、太陽光線のもたらす自然の恩恵を再評価する必要性を力説しているが、このために彼の住むボストンなら、二分乃至三分の日光浴を週二回はしなければならぬと言ふ。

なお、それ以上日光浴をしては、ビタミンDが過剰にならないのは、出来過ぎたビタミンDは活性を失う(応用光線療法学⁽¹⁰⁾参照)と述べ、特に高令者は光線浴を行うようすすめている。

(ワ) イスマンらが指摘した通り、高令者はビタミンD欠乏症に罹りやすいのであるが、常に最高値をとるのは屋外労働者であり、最も低値をとるのは屋内生活者であることから、本紙一面に述べた如く、高令者ほど光線浴をする必要がある。特に高令婦人は、骨軟化症を起こしやすいので、屋外に出て太陽光線を浴びるように心掛けるべきである。

(サ) ナモアは病氣はないと思っている人がかけても有益なのは、知らないうちに太陽光線の恵みを我が物にできるからである。

(高) 令者によく見られる難治な骨、関節疾患に、加令によって増悪する骨軟化症が関っていることに疑いはない。

この骨軟化症の原因は単一でないが、最も主要なことは、加令に伴うビタミンD生成能および吸収能の低下であり、その結果として、ビタミンDの欠乏状態が続くことである。

ここで高令者のビタミンD代謝について概説しよう。

(既) に本稿で述べた如く(応用光線療法学⁽¹⁰⁾)生体のビタミンD生成量は、一元的には紫外線の関与で7-デヒドロコレステロールの量に左右されるが、活性には肝臓、次いで腎臓で代謝される必要がある。それ故、加令によって生理的にビタミンDの作用が減弱することを明らかにするために、加令による生理的な腎機能低下も考慮しなければならぬ。

イスラエルのワイスマンらは、近年明らかにされたこれらの点を踏まえて、加令のビタミンD代謝に及ぼす影響を明らかにした。

適度な光線浴で健康保持

上野 貞子先生の御長男の上野 健太郎先生の司会で、午前の第一部が始まりました。

まず講師にお迎えした、東京光線療法研究所長 宇都宮先生が登壇され、「光線療法の基礎と実際」と題して講演されました。

講演は、光線療法の基本、光線欠乏症は現代病、ビタミンDは光線で補え、光線療法の臨床応用、紫外線と皮膚ガンの五つの項目をスライドを使って分かり易く解説して下さいました。

最近マスコミ等で太陽光線と皮膚ガンの関係が話題になってきていることもあって、紫外線と皮膚ガンについては、先生も特に力を入れていろいろな資料を使って懇切に説明されました。

先生は、最初に最近の発ガンに関する考え方を紹介して、皮膚ガンの原因は中波長の紫外線で、サナモアは長波長の紫外線は放射するが、危険性を指摘されている紫外線は放射しないので安心して使うようにと話されました。次いで、日光浴にも

触れ、知り合いに皮膚ガンの患者はいるかと問いかけながら、皮膚ガンは光線に抵抗性のない白人に多いことを述べられ、日本人が日常浴びている量では問題にならないことをじゅんじゅんと説かれました。

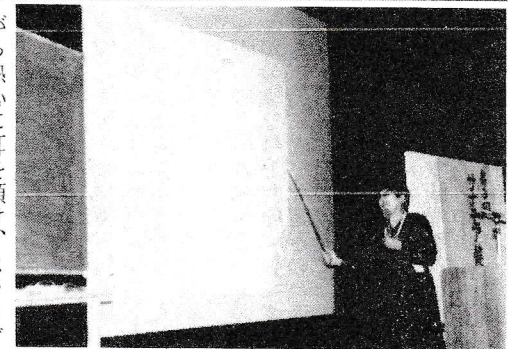
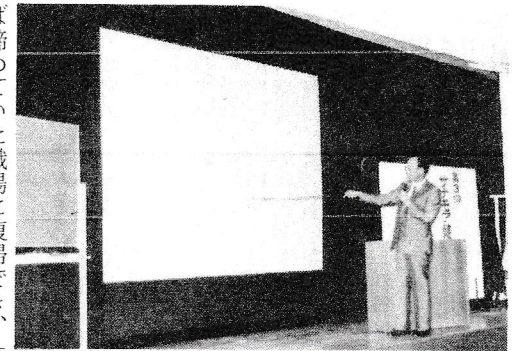
その上で、ガンの一次予防に、ガンの原因がすっかり解明されていない現在、健康づくりが如何に大切かについて、光線浴が直腸ガンを防ぐというアメリカの研究報告を引用しながら説明されました。

先生のお話しをお聞きして、適度な光線浴が健康づくりに果している役割の重大さが理解できて、サナモア光線療法に対して一層信頼感を深めました。

足切断を免れる

次に「ウエノ光線療法」の上野 貞子所長がサナモア光線療法の具体的な使用法について、治験例のスライドを使って説明されました。

足の壊疽にかかった働き盛りの男の人が、医師が勧めた足の切断手術を断って、光線治療で最小限度に食い止めて治し、半



ば諦めていた職場に復帰でき、生活不安も解消した例が、特に印象深く記憶に残っています。その他には、やけど、重症な乳腺炎、むち打ち症、各種関節炎、ぜんそく、胃潰瘍、子宮筋腫など十数例について、使用カーボンの種類、照射する場所、照射時間、照射に適した姿勢等、具体的に注意すべき点を細かく説明して下さいました。

会場では、上野先生の講演を聞きもらすまいとメモをとりながら熱心に耳を傾け、スライドに見入る光景が至るところで見受けられました。

体験発表

午後1時から、第二部が始まりました。まず、日頃サナモアを愛用している三名の方が思い思いに、サナモアとの出会いから今日までの体験談を、上野先生の人柄も交えてお話しになりました。

診断は病院で

治療はサナモアで

最初に体験発表をして下さった川西市の平井さんとサナモアとの出会いは約五〇年前のこと、当時肋膜炎を患い弱かった身体が、サナモアのお陰で健康を取り戻し、丈夫になったのが切っ掛けと体験談を始められました。そして、十年程前には息子さんの痔疾を

治し、最近、御自身が大火傷をした時もサナモアですっかり良くなったことなどお話しになり、診断は病院で治療はサナモアでが私の信条と述べられました。

再発した脊椎

カリエスを治療

次に神戸市の堀さんがお話しになりました。光線療法を迷信だ、一時的だと批判していた堀さんの御主人が、前に患った脊椎カリエスが再発した時、当人はあまり気が進まないようだったけれどサナモアをかけていたら、六カ月後には治療した医師も驚くほど良好な経過をとり、一年後にはストマイ注射も止める話ですっかり元氣になっていく話をされました。

続けて堀さん本人の体験に移り、人間ドックの肺の断層写真に小指大の陰影が三つあり、肺結核の疑いと宣告され目の前が真っ暗になりましたが、上野先生に相談して、結果が分るまで一カ月間サナモアで家庭治療を続けたところ、一カ月後のレントゲン写真では例の三つの陰も殆んど分らないくらいに薄くなり、血沈や喀痰の検査も正常に戻り、心配が杞憂に終わった喜びを語られました。

念のため、その後に診てもらった病院でももう大丈夫、すっかり良くなっていますと太鼓判を押され、今では夫妻とも健康な日々を送っていますが、これも上野先生とサナモアのお陰ですと感謝の言葉で結ばれました。

「サナモア健康の会」に参加して

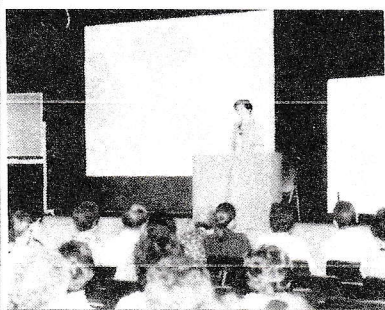
神戸で盛大に開催

上野 貞子先生が神戸に「ウエノ光線療法」を開設してから、三十五周年にあたることを記念して、「第三回、サナモア健康の会」が、昨年の9月18日(日)

と受ける一

「本 容子

写真 上。会場を埋めた五百人の参加者

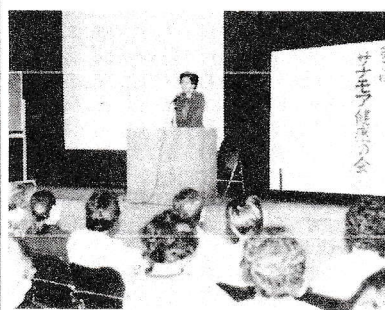


絶望視された
心不全が治る

最後は、神戸で学校の先生をなさっている藤田さんがお話しになりました。

病弱な藤田さんは、十三年間慢性気管支炎を患い、病院通いが絶えず、医師の言う通りに養生してもはかばかしくなく、疲れ易い、元氣のない日々を送っていました。上野先生とサナモアを知ってからは、旧知の人が別人と疑うほど活力に満ち、元氣になり、感謝の毎日ですと話を切り出されました。

そして次に、スキーで膝下を



骨折した時のことを話され、治療した医師から大変に難しい骨折で、百人中九十九人は完全に元のように治らないから、杖を使うようになるかも知れないが覚悟して下さいと申し渡されたのを、それから三カ月間、毎日サナモアを照射して、担当医師が「不思議だ、すっかり治っている」と驚くほど完全に治した話をされました。

続けて御家族のことをお話しになりました。藤田さんのお母様が二年前、八七才の時に心不全で倒れられ、顔から身体全体がチアノーゼで紫色になり、むくみのためパンパンに腫れあが



り、意識も混濁、駆けつけたお医者さんが六時間も手を尽くして治療して下さいましたが回復の徴候を認めぬまま、帰り際に「もう時間の問題です」と言われたこと、その直ぐ後にサナモアを出してきて、足の裏に一時、膝に三〇分ぐらいかけたら、だんだん赤味がさしてきて、腫れも引き始め、やがて意識も戻ったこと、その後に入院した国立病院でも経過がはかばかしくないので病院に頼んで退院させ、家でサナモア照射を続けたら日増しに健康を取り戻したことなく話されましたが、その時の御家族の喜びはいかばかりか思い



開会の午前10時には、サナモアを愛用している方達が、阪神間を中心に東は奈良、京都、西は岡山、広島山口などから約五百人も参加され、さしもの大ホールの席を埋めました。

一多大な感銘

神戸市西区押部谷町

巡りました。

お母様は今もかくしゃくとしてられますが、昨年は八十八才で東京へ旅行できるまでお元氣になられたとのことでした。

また、結婚式を控えた御子息が、右眼に庭球のボールを当て、耐え難い痛みを訴え失明寸前までいったのが、サナモア照射で日に日に快方に向い、結婚式には完治して予定通り挙式できた話をされました。

それまでどちらかと言うと光線療法を馬鹿にしていた息子さんが、結婚祝にサナモアをとせがまれたそうです。

最初は半信半疑

最初は半信半疑の思いでサナモアを使い、一つ病氣が良くなると押入れに仕舞い込んだり、面倒臭かったりで中断しながらも、次第にサナモアの素晴らしい効果に目を開いて行く有様を、体験発表をされた三人の方は生き生きと語られました。

サナモアで良くなった例も多方面にわたり、内容も豊富で聴く者の胸を打ち、これからサナモアを利用する上で示唆に富むお話を聞かせて戴きました。

質疑応答

最後に、光線療法を利用してある方達の質問に、宇都宮先生と上野先生がお答えになりました。

まず、宇都宮先生が、不定愁訴、糖尿病、白内障等多岐にわたる質問に対して、一つ一つ丁寧

とウエノ光線 上野 貞所長(右下)
左上から 体験談を発表する平井さん、堀さん、藤田さん

寧に答えられました。また多数寄せられたガン患者の光線療法については、午前の講義を敷衍される形でお話しになりました。即ち、転移してないガンは、むしろ良性疾患で外科的に切除すればこと足りるが、一旦転移したガンに対する治療は行き詰っている現状を述べた上で、今、患者や家族にできる大事なことは、ガンと戦える強い身体を作ること、この面でサナモアを活用してほしいと言われました。

また、サナモアには即効性の鎮痛効果があるため、ガンによる痛みを、家庭で麻薬を使わずに和らげることができると、この点からもサナモアを使うよう強調されました。

続いて、上野先生が、質問されたそれぞれの病氣について、具体的かつ明解に、サナモアの使い方や要領を説明されましたが、長年の実績に裏付けられた自信のほどがうかがわれ、心強く感じました。

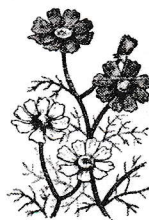
× × ×

以上をもって、六時間余に及んだ「第三回、サナモア健康の会」は、拍手のなか盛会のうちに終了しました。

○ 摘筆するにあたり、この会を企画して下さいました上野先生始め関係者の皆様にお礼申し上げます。私たちサナモア愛用者ですら気付かなかったような素晴らしい効果があることに驚き、多大な感銘をうけました。

明日からもまたサナモアを!!

新春雑感



東京光線治療院

海渡 一二三

キオクと生命

キオクを漢字で記憶と書くのは、己の言を小の意で思い出すと言うことだそうですが、私がこれから述べるキオクは、頭や心で覚えていることだけではなく、主題は自身も気付かないうちに身体が覚えるキオクですから、普通に使う意味と区別するためにカナ文字でキオクと書くことにしました。

さて、私たち人間を始めすべての生物は、先祖から生命と一緒に龐大なキオクを受け継ぎ子孫に伝えます。その上、生まれてから死ぬまでの間も絶え間なく新しいキオクを覚え続けています。前者を遺伝、後者を環境と言えれば分りやすいかも知れませんが、即ち、私たちはキオクを通じて、遺伝と環境の影響を受けているのです。ところで、身体は正しい良いことも、間違った悪いこともキ

オクしますから、どちらを積み重ねるかによって、健康にもなれば病気にもなります。早くこのことに気付き、正しい良いキオクを身体に覚えさせるようにしなければなりません。私たちは、キオクする生命体ですから、もし正しいキオクを忘れると後悔するはめになります。

キオクと健康

健康に暮すためには、生来のキオクに合うようにすると同時に、日常生活でも正しいキオクを身に付ける必要があります。食事と胃腸の關係にしても、キオクに合っていないと胃腸は正常に働くはずですが、でも、腐ったものや毒物をとれば、キオクは排除するように命じるので吐いたり下したりします。他にも、生命は無限のキオクを持っています。食事を忘れると空腹になり、栄養に偏りがあれば栄養失調になります。また、ものを覚える記憶力も生命の持つキオクの一種ですから使わなと退化します。眼で物を見るのも、足で立って歩くのも同様です。男女和合して新しい生命を生むキオクがあるからこそ、

健康を願う人に

— 身体が覚えるキオク —

生命光

この世に無くてはならない太陽光線は、ただ明るさをもたらすだけでなく、総ての生命の誕生や、生命体が存分に機能を發揮する上でのキオクと深く係っています。ですから私は生命光と言っています。

植物は、水と炭酸ガスと日光で、私たちに食物を与えてくれるだけでなく、動物に必要な酸素を作ります。もし植物がこのキオクを失えば、私たちは直ちに死に絶えるしかありません。

総ての生命は子々孫々絶えることなく存続するのです。反面、タバコの喫い過ぎ、酒の飲み過ぎのように間違ったキオクを重ねると、正しいキオクを失い病に苦しむことになります。このような平凡な注意で、生命体は健康にも不健康にもなり、引いては病気にもなるのです。それ故に、キオクを大切にするように努めることが、健康を保ち、病気に勝つ所以です。

サナモア光線療法

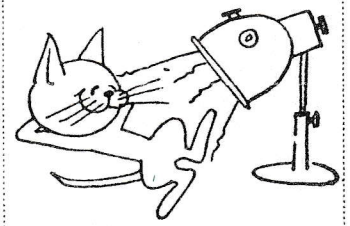
に死に絶えるしかありません。私たちが人間を始め動物も、光を浴び、エネルギーを吸収して健康になるキオクを持っているので、毎日光線を浴びていると、風邪も引かずに健康でいられるのです。このようにキオクを生かし、キオクを妨げないようにしなければなりません。

頭痛の人を治療

サナモア光線療法は、健康な時のキオクに戻す療法です。すると、頭が正常なキオクを思い出すので頭痛がなくなり、神経痛の人に照射すると、神経が正常なキオクをとり戻して神経痛が治ります。いつでも健康なキオクが支配する生命体でいるためには、胃腸も肝臓も腎臓も心臓も、正しいキオクの下で働くのでなければなりません。サナモア光線療法はこの働きを助けるのです。光線の生理作用、物理作用、化学作用を上手に利用することが必要です。この光線の働きを忘れると、見返りは不健康になり病気になるやすすくなるでしょう。即ち、人間を始め生物は、キオクを捨てることは出来ない

未来の医学

現代医学は、あまりに病氣中心になりすぎ、健康をないがしろにしています。私は生物の持つキオクを正すことこそ、健康を保ち、病氣を予防し治療する上で、最も大切と考えています。そして、この目的を達成するのが未来の医学ではないでしょうか。その手段が、サナモア光線療法であることを信じて疑いません。「キ」良く、「オ」ちついで「ク」るしまないためには、健康に役立つ「キオク」を働かせる努力をおしんではなりません。サナモア光線が、この面から有益なことを、私たちサナモア愛用者が証明しようではありませんか。



— 治 験 例 報 告 —

☆ 虚 弱 児

症例 9才 女児
症状 生来体が弱く、よく風邪を引き、身長は低く55.6才程度、体が丈夫になり、背丈がのびるようになると連れてきた。

療法経過 ACカーボンで、腹部（幼児は一号集光で少しはなしで）、膝、足裏、腰、背、小脳（一号集光）に各五分、遠方のため自宅で毎日かかさず照射、

初来院以来約5年（現在中学一年）になるが、背丈ものび外の子供とあまり変らないようになったと喜びの知らせが両親からあった。

☆ 卵巣のう腫

症例 45才 女性
症状 岡山大病院で卵巣のう腫と診断され、手術をすすめられたが、丁度農繁期のため入院せずに、遠方なので自宅で光線療法をした。

療法経過 ADカーボンで、腹部十分、膝、足裏各五分、腰十分、背五分、子宮口（局部）十分と小脳五分は一号集光使用で照射、次は腹、腰、子宮口に十分づつ、朝晩二回の照射を指示した。

治療開始一週間目から、しけの濃いのが出始め、約10日間外出もできないほど多量に色のついたのがでた。その後は下腹部の痛みも無くなり、おりのものも止ったが、心配なので再度診察を受けた。その結果、何んの異常もなく不思議がられたとのことで、あまりの嬉しさに神戸までお礼に来られた。

☆ 腹水（原因不明）

治療対象 猫
症状 腹部が太鼓腹になり、食べなくなる。犬猫病院で診察をうけたら、腹水があり助から

愛用者だより

☆ 生活の必需品

東京日野市 南部マサ
一昨年五月サナモアを購入しました当時は、左足のくるぶしがはれて水が溜まり、困っておりました。御教示通り毎日10分、15分一日三回照射しておりました。だんだんと水が溜まらなくなり、半年で完治しました。

ない、苦しんだら注射一本で安楽死させたらと云われる。

療法経過

ACカーボンで、腹、背、後頭部各五分、肛門五十分、一日二回照射、横に寝たきりの猫が砂箱に排尿し、3日で腹水はなくなり普通のオナカになった。

（助からないと云われ、泣く泣く家に連れ帰りましたが、この時、上野先生を思い出し、電話で指示をうけました。猫は喉をならすと元氣といいますが、この猫も喉をならすようになりまし。）

神戸市 ウエノ光線療法、上野 貞子氏報告
TEL 〇七八三三二一三三八

☆ 尿管結石

症例 30才 女性
症状 下腹部から腰や背中に鈍痛を感じ、時にきりきり痛む。

以来、肩がはってあて、腰が痛いといつてはあて、我家では、サナモアは生活の必需品となつています。おかげさまで快調に過ごしております。

☆ 認識を新たにす「健康と光線」

福岡県八女市 米田千里
「健康と光線」お送り下さいましてありがとうございます。人間生活と光線との関係を

そのうちに血尿も起る。本例は過去に片側の腎を摘出していらる。

検査の結果、残尿管に結石あり、治療を受けたがはかばかしくなく、2カ月後に光線療法を希望して来所した。

療法経過 AA、AB、ADカーボンを交互に使用して、足裏、足首、膝、腰、背、横腹、下腹部に熱く感じるまで気持のよい間照射、特に仙骨部には一号集光器を用いた。

一週間ほどの治療で痛みは殆んどなくなり血尿も出なくなる。一ヶ月後にレントゲン検査を受けたが、結石は排出していた。

☆ 初発白内障の疑

症例 65才 女性
症状 突然、視力は変らないのに、左眼で大きなくもの巣のようなものが見えるようになる

理解しやすく記述してあり認識をあらたにしてあります。先日、材木切り出しをしてる友人が材木にはねられ大ケガをしました。サナモアを朝晩熱心にかけたお陰で熱も出ず、痛みもやわらぎ医者がびっくりする程早く治りました。

福岡の前田先生には大変お世話になっており、これからもサナモアを愛用してゆくりです。

りどうにも治らない。白内障の前徴ではないかと考えた。

療法経過

A又はABカーボンを交互に使い、最初は足裏、足首、膝、腹、腰、背、後頭部、眼に照射した。一週間して、くもの巣は小さくはなったが、ひどい肩凝りの後に症状が出たので、肩甲部、頸の両側、肩関節、肘関節、両手も追加した。その後一週間の間にくもの巣は見えなくなり、ごく小さい虫が一、二匹飛ぶ程度になり、これらいつの間にか消失した。その後三年経ったが何んの異常もない。

春日市 前田光線治療所 前田 ミサ子氏報告
TEL 〇九二五八二二〇三九

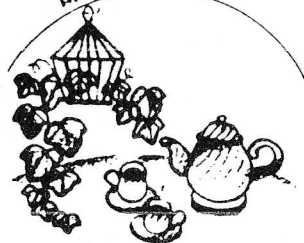
☆ アレルギー体質

症例 33才 女性
症状 10年来、鼻炎、結膜炎、喘息等に繰り返し罹患する。アレルギー体質と診断され治療も受けたが、良くなったり悪くなったりはつきりしないので、光線療法に救いを求めて来院した。

療法経過 ACカーボンで、鼻、腰に各五分、腹、足裏各十分、後頭部、左右耳に各五分づつ計四十五分照射した。

毎日治療を行ったが、アレルギー症状は徐々に改善し、二ヶ月後には症状は完全になくなった。
川崎市 東京光線治療院 海渡 一二三氏報告
TEL 〇四四一七二二五〇六七

話のラウンジ



□レーザー光線で痛みを治療□

サナモアの愛用者なら、サナモアで痛みが和らぐことを知っています。でも未経験者に光線の鎮痛効果の話をしてもなかなか信じてくれません。

ところで、昨年一〇月二日の朝日新聞日曜版の「みんなの健康」に、注目の新方法、頭痛、腰痛、筋肉痛、五十肩、レーザー光線で治療、劇的な効果の例も、という記事が掲載されました。このレーザー光線の効能は、原理的にサナモアの効果と同じと考えられますので、要旨を引用し関連性を説明します。

記事は赤外線レーザー発生装置で、痛み、しびれ、まひなどを治療した成績を報じたものです。

まず大城クリニック（東京）と名古屋保健衛生大病院では、波長八三〇ナノメートル、出力六〇ミリワットの半導体レーザーを使って、後頭神経痛、ねん

ざ、腰痛、五十肩、帯状ほしん後遺症などの痛みや、やけどで片腕が全く動かなかった人や、脳卒中、頭部外傷、くも膜下出血などの後遺症の治療を行い、名古屋保健衛生大では、六〇／八〇％が著効という好成績をあげていることを述べ、次に名古屋大病院では、波長一〇六〇ナノメートルのヤグ・レーザーでがん患者の痛みの軽減を試み、著効一〇％、有効五八％の結果を得たと述べています。

ただいづれの病院でも、効いた理由は今後の検討に待つとしていますが、可能性として血管拡張作用による血流の改善、からだの中で痛みを抑える物質が分泌されるなどをあげています。なお特に弱いレーザー光線を使っているため特別な副作用は認めないとのこと。

このレーザー光線とは何なる光線なのでしょう。レーザーが發明されてから二〇年が過ぎ、この間に、光ビデオディスク、レーザー通信、測量、カッティングなど多岐にわたり使われています。医学面への応用も、外科領域では炭酸ガスレーザーによるレーザーメス、眼科ではアルゴンイオンレーザーによる光凝固装置が既に実用に供されています。

レーザー光線の性状は光と同じ電磁波ですが、光が相互に関係ない多数の波が集合しているのに対し、レーザーは特定波長を増幅しますので単色性に優れ、著しく鋭い指向性を持ち、出力を強くして強力な放射エネルギーを与えることができますので、目的用途によってはメスの変りにも使えるのです。

今回治療に使ったレーザー光線は近赤外線ですから、サナモアと同じ波長の光線を放射しています。従って、レーザー光線療法は、従来の光線療法を形を変えて行ったと言うことができます。こう考えれば、新しい発想に基づいているものの、レーザー光線の効果は、今から百年以上も前に日光療法を行った光線療法の先駆者や、その後の光線療法研究者が指摘した近赤外線の効果と再確認したに過ぎません。

光線の鎮痛効果を不思議だと思ふ人でも、サナモアをかければ必ず痛みは和らぎます。近赤外線レーザー光線の痛み、しびれ、まひに対する効果は、そのまま家庭でサナモアで体験できるのです。

☆ 新年は一月五日(木)から営業を開始します。

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

光線療法が、人々の健康に寄与し得ることは疑いないにも拘らず、現状の医療体系は薬物手術に偏し、光線の効果についての一般の認識はなお十分と言わざるを得ません。

このため、人々の健康を願つと共に光線療法について、啓蒙、普及活動を行う目的で、サナモア中央診療所内に、サナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、会員相互の懇親、体験発表意見交換を通して、光線療法についての理解を深めるため「健康と光線」を季刊にて発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八二
七二二-五三三二